

台風10号に備え 避難本格化

奄美大島の5市町村は、5日夕までに180か所以上の避難所を開設。龍郷町にある「町体育・文化センター」の1階には、5日夕方頃から荷物を抱えた住民らが続々と集まった。

同町の岩切アイ子さん(81)は自宅近くの避難所に行こうとしたが、そばを流れる川の氾濫を心配し、近所の人たちと高台にある同館に足を運んだ。「これまで避難所を利用したことはなかったが、今回は怖くなった。大きな建物にいると

安心する」と語った。九州豪雨で自宅が被災した熊本県八代市の富永太蔵さん(69)は、球磨川沿いにある自宅2階の窓部分を木製パネルで覆った。1階は豪雨で浸水し、今も窓や床板を外したままで、「家がこれ以上傷つかないか心配だ」と表情を曇らせた。

熊本県人吉市は5日夜、熊本市への広域避難を計画している。公式サイトで発表した。豪雨で損壊した自宅にとどまる在宅被災者の避難が目的で、新型コロナウイルスの感染対策で人吉

市内の避難所が密になることを避ける狙いもある。6日朝に防災無線などで呼びかけ、希望者をバスで熊本市内の県施設に送る。

JRが計画運休
台風10号の接近に伴い、JR九州は5日、九州新幹線熊本-鹿児島中央間を6日正午頃から、博多-熊本間を同日午後3時頃からいずれも7日まで運休すると発表した。7日は在来線も全て運休する。JR西日本も5日、山陽新幹線の広島-博多間で7日の始発から終日運転を取りやめる計画運休を実施すると発表した。新大阪-広島間は本数を減らして運行する。

この影響で、東海道新幹線も一部で運休や行き先変更が行われる。

奄美大島や九州豪雨被災地

台風10号に備え、鹿児島県・奄美大島や7月の九州豪雨の被災地では5日、高齢者らの避難が本格化した。鉄道の計画運休も発表され、警戒感が一層高まっている。

〈本文記事1面〉

氾濫が心配「大きな建物に」

●台風10号に伴う
大雨・暴風・
波浪・高潮の見通し

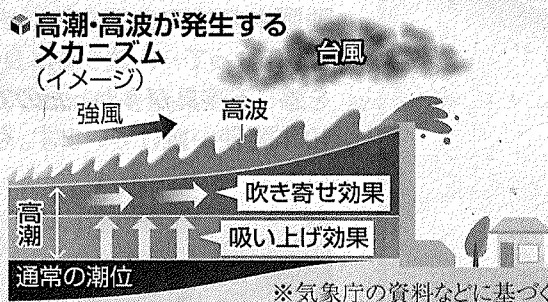
※気象庁5日午後5時現在

警報級
注意報級

	大雨	暴風	波浪	高潮
関東甲信				
東海				
近畿				
中国				
四国				
九州北部				
九州南部				
奄美				
沖縄				

干拓地多く 高潮リスク

専門家「注意必要」



※気象庁の資料などに基づく

台風10号の今後の進路や潮位によっては、九州沿岸部で高潮・高波が発生し、広域で浸水被害が出る恐れもあるとして、専門家は早めの避難を呼びかけている。

高潮は、気圧が低い台風によって海面が上昇する「吸い上げ効果」と、海岸に向けて吹く強風による「吹き寄せ効果」の二つの

作用で潮位が高まる現象だ。海上の気圧が1hPa下がると、潮位は1cm上がる。早稲田大の柴山知也教授(海岸工学)によると、10号に伴う潮位上昇は、吸い上げ効果で約1m、吹き寄せ効果で約5mに達する可能性があるという。高潮が発生しやすいのは、遠浅の海や、台風に向かって吹く風の影響が大

きい南方に開けた湾など。加えて、九州の沿岸部は、農地を広げる干拓事業により、浸水リスクが高い低地も多い。佐賀県など4県に囲まれた有明海は、細長い海域の影響で干満差が最大約6mと日本有数の大きさで、台風通過が満潮時と重なれば被害が拡大しかねない。

京都大の森信人教授(海岸工学)は「河川は水位上昇に数時間かかるが、高潮は30~60分で急速に潮位が上がる」と指摘し、安全な場所への早期避難を訴える。

一方、高波については、高さ15~20mに達する可能性がある試算。「風が強くなる台風の進行方向の右側に当たる地域や、外洋に面する離島では特に注意が必要だ」としている。